

平成 2 3 年度

事業計画書
収支予算書

財団法人 大阪 2 1 世紀協会

○平成23年度については、関西・大阪再生への重点戦略課題に引き続き取り組む。グローバル化が進む中、各国との相互理解を促進し、交流を深めるためにも、文化による地域の活性化や産業の高付加価値化が日本の国際競争力強化には欠かせない。

○平成23年1月18日に当協会が開催した「関西・大阪文化力会議」には、延べ1,200人を超える参加者が集まり、日本の相対的なプレゼンスが低下している今こそ、関西の町衆精神を発揮し、民が行動をおこそうとの合意に至った。「文化立都」、すなわち、大阪・関西の文化力向上が、当協会の果たすべき使命である。

○平成23年度は、事業の選択と集中を継続し、①「文化力向上と人材育成」、②「関西・大阪のイメージ向上」、③「水都大阪まち育てと社会実験」の三本柱に絞り込んだ事業を展開する。当協会がこれまで培ったネットワークとノウハウを活用し、以下の事業を効率的に推進する。

○公益法人制度改革への対応、協会の体制の検討、および賛助会員の維持・拡大を目ざした活動を引き続き行う。

1. 文化力向上と人材育成

協会が培ってきた知的ネットワークを活かし、学ぶ場づくり、人材育成など、文化力向上のための課題に取り組む。

(1) 社学連携

① アート・アSEMBリー

21世紀の懐徳堂プロジェクト[大阪市、大阪大学、大阪21世紀協会]連携事業。

音楽・芸術分野における人材の育成を目的に、大阪文化祭賞受賞者などのアーティストを経済界や市民に紹介するための発表の場、交流の場づくりを行う。

支 出 800千円 収 入 123千円

② 300DOORS (仮称)

関西・大阪で活躍する魅力的な人材を講師に迎え、古典芸能からポップカルチャー、最新アートなど多彩な体験型講座を集中開催し、市民が教え・学ぶ場を作ることにより、「体験する」楽しさを提供し、市民の創造活動を誘発し、文化の裾野を広げ、大阪の文化力を高める。当協会は、コーディネーターとして活躍できる人材の発掘・育成に注力する。

主 催 *IWF実行委員会
(大阪市、*LLPアートホール、大阪21世紀協会)

実施時期 7～8月

支 出 2,000千円

(*IWF: International Workshop Festival の略)

(*LLPアートホール: 劇場施設の運営管理を請け負うために設立された
有限責任事業組合)

③ 21Cafe

各方面で文化活動に携わる方々を招き、市民のための交流の場づくりを行う。

支 出 300千円 収 入 223千円

(2) 人材育成

① 平成23年度大阪文化祭賞

大阪の芸術文化活動の奨励及び普及を図るなど文化振興の機運を醸成することを目的として、大阪府、大阪市とともに5～6月に大阪府下で行われる公演等を対象に「大阪文化祭」を開催する。

参加公演のなかから注目すべき成果をあげた個人（または団体）に賞を贈呈し、広くPRする。当協会は副賞として賞金を贈呈する。

主 催	大阪府、大阪市、大阪21世紀協会（運営委員会事務局）
募集期間	平成23年2月21日（月）～3月18日（金）
贈呈式	平成23年8月末～9月初旬
支 出	1,050千円

② 後援等

大阪文化の推進に資する団体、行事、個人について後援（後援名義の使用許可、賞状・楯の授与等）を行う。

平成22年度の後援実績：176件（平成23年3月1日現在）

実施時期	通 年
支 出	100千円

③ アートストリーム2011

公募選考により関西を始めとする内外の若手アーティストの作品展を開催し、発表の場を提供し、心齋橋からの「アート系若者文化の発信」を行う。

また、アートストリームアワードを設定し、表彰式もあわせ行いギャラリー・メディア関係者とのコミュニケーションの場も設定する。

主 催	アートストリーム実行委員会（大阪府、大阪市、大阪芸術大学、事務局 大阪21世紀協会）
実施時期	11月
実施場所	心齋橋（予定）
支 出	3,100千円

④ 文化団体等との連携

文化振興等に取り組んでいる団体等との連携をはかり、その取り組みの紹介や推進をはかる。

実施時期 通 年
支 出 350千円

2. 関西・大阪のイメージ向上

関西・大阪のイメージ向上につながるブランド情報を、戦略的かつ機能的に編集し、適宜発信する。

(1) 関西空港等公共スペースにおける関西・大阪ブランドの映像発信

関西国際空港等の公共スペースを活用し、関西のイメージ向上に繋がるブランド映像「四季の関西・大阪の魅力（景観、季節の風物 他）」を発信する。また、これらの映像を著作権フリーのライブラリーとして利用拡大をはかる。

実施時期 通 年
支 出 1,600千円 収入 1,600千円

(2) コンテンツ制作

国土交通省（近畿圏広域地方計画推進室）が事務局となり取り組んでいる「文化首都年～はなやか関西～」運動と連携し、平成23年度のテーマである「お茶の文化」を始め、関西が誇る文化資産としての伝統行事・伝統芸能など、関西の魅力的なブランド資源を編集し、協会 WEB などを通じて広く発信する。また*K-CAT との共同制作により、メディア連動の情報発信を行う。

実施時期 通 年
支 出 800千円

(*K-CAT：eo 光テレビブランドでお馴染みの関西全域をカバーするケーブルテレビ)

(3) WEB放送局の運営

関西・大阪の文化的イメージ向上を基本コンセプトとして運営を行う。
コンテンツとしては関西に関係する芸術・文化活動の情報を動画やブログ、
メルマガなどで幅広く発信する。

実施時期 通 年
支 出 4, 0 0 0 千円

(4) ブランド情報誌「OSAKA*文化力」の発行

関西・大阪のブランド力向上を目的として、関西・大阪の文化に関する
諸課題や、協会の取り組み状況に関する情報を広く発信するブランド情報
誌として、定期刊行を行う。

発行時期 秋、春
支 出 5, 5 0 0 千円

(5) 御堂筋等におけるバナー展開

御堂筋、長堀通等の市道の街路灯へのイベントバナーの掲揚を推進する。

実施時期 通 年
支 出 0 千円 収 入 1 5 4 千円

(6) 伝統文化催事・芸能の支援

① 無形文化財の保護、育成事業への支援

住吉大社のお田植え催事(国指定重要無形文化財)等を支援するとともに、
記録映像をライブラリー化し、協会WEB等で情報発信する。

実施時期 通 年
支 出 3 0 0 千円

② ミナミ上町台地フォーラム

南大阪、上町台地の歴史や伝承を探り、語り伝えられてきた催事に触れ
ることで、その歴史的役割の再発見と伝承を記録し、発信していく。

実施時期 春～夏
支 出 5 0 0 千円

③ 夏祭り

大阪の伝統文化である祭りの記録映像をライブラリー化するとともに、協会 WEB を通じて、大阪ブランド情報として広く発信する。

実施時期 夏期
支 出 150 千円

(7) 広報活動

協会の取り組み・活動状況に関する情報をマスコミ等に対して効果的に発信していく。

実施時期 通 年
支 出 1,000 千円

(8) 協会設立30周年記念資料整備

平成24年度に協会設立30周年を迎えるにあたり、発刊を予定している協会設立30周年記念誌編集のための資料整備を行う。

実施時期 通 年
支 出 300 千円

3. 水都大阪まち育て

八軒家浜、中之島界限を中心に、水都を活用した市民・NPOによる水辺のまちづくり、水都のにぎわい創出を推進する。

(1) 水都大阪の継承、継続

① 「平成 OSAKA 天の川伝説」への参画

前年度に引続き、「平成 OSAKA 天の川伝説運営委員会」に参画し、夏の八軒家浜の賑わい盛上げを支援する。

主 催 平成 OSAKA 天の川伝説運営委員会
実施時期 7月7日(木)
支 出 300 千円

② 大阪水上音楽パレード2011

過去2回の実績を踏まえ、NPO法人・大阪水上安全協会とともに、水都大阪に相応しい行事として定着をめざす。

- ・市内の河川を航行する船舶によるパレードで、大川と道頓堀とを結ぶ。
- ・青少年育成の一環として、高校吹奏楽部の発表の場とする。
- ・大阪北ヤードのナレッジキャピタルとの連携を図る。

主 催	大阪21世紀協会、大阪水上安全協会		
実施時期	10月中旬		
支 出	6,500千円	収 入	2,000千円

(2) 「大阪城サマーフェスティバル2011」

大阪城周辺で夏季に実施される様々なイベントを集約し、各イベント間の連携を図る。以下に力点を置き、共同PR等を実施する。

- ・大阪の芸術文化の情報発信力を強化
- ・上町台地の伝統文化の再発見
- ・大阪の賑わい創出と観光集客

今年度は、サマーフェスティバルへの参画を内外に呼びかけ、西の丸庭園特設ステージの共同利用事業については、サマーフェスティバルの核となる事業として育てる。

主 催	大阪城サマーフェスティバル実行委員会 [大阪府、大阪 市、経済団体、民放、大阪21世紀協会(事務局)等]
実施時期	7月初旬～9月初旬(西の丸庭園共同利用事業は8月下旬予定)
支 出	3,000千円

第 7 号議案 平成23年度収支予算について

平成23年度収支予算

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:千円)

勘定科目	平成23年度 予算額案①	平成22年度 補正予算額②	増減①-②	前年比	摘 要
I 事業活動収支の部					
1.事業活動収入					
基本財産運用収入	7,300	7,300	0	100.0	
基本財産利息収入	7,300	7,300	0	100.0	基本財産運用利息
特定資産運用収入	600	500	100	120.0	
特定資産利息収入	600	500	100	120.0	特定資産運用利息
会費収入	62,000	66,000	△ 4,000	93.9	
法人賛助会費収入	61,000	64,500	△ 3,500	94.6	
個人賛助会費収入	1,000	1,500	△ 500	66.7	
事業収入	2,100	4,580	△ 2,480	45.9	
企画調整事業収入	0	0	0	—	
文化振興事業収入	2,100	4,580	△ 2,480	45.9	21cafe(223) アートアゼンブリー(123) 関空映像(1,600) ハナー金具(154)
協賛金収入	2,000	2,000	0	100.0	水上パレード協賛(2,000)
補助金等収入	0	0	0	—	
雑収入	100	512	△ 412	19.5	利息収入
事業活動収入計	74,100	80,892	△ 6,792	91.6	
2.事業活動支出					
事業費支出	53,951	66,256	△ 12,305	81.4	
企画調整事業支出	2,874	3,039	△ 165	94.6	事業費(2,874) ※公益認定申請時法人会計へ移行
文化振興事業支出	51,077	63,217	△ 12,140	80.8	事業費(32,286) 共通費(8,446) 人件費(10,345)
管理費支出	20,088	21,462	△ 1,374	93.6	
管理費支出	20,088	21,462	△ 1,374	93.6	事業費(5,381) 共通費(3,616) 人件費(11,091)
事業活動支出計	74,039	87,718	△ 13,679	84.4	
事業活動収支差額	61	△ 6,826	6,887	—	

勘定科目	平成23年度 予算額案①	平成22年度 補正予算額②	増減①-②	前年比	摘 要
Ⅱ 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入	0	170,000	△ 170,000	—	
財務安定積立資産 取崩収入	0	170,000	△ 170,000	—	
退職給与引当資産 取崩収入	0	0	0	—	
投資活動収入計	0	170,000	△ 170,000	—	
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	0	196,900	△ 196,900	—	
文化振興事業積立資産 取得支出	0	80,000	△ 80,000	—	
企画調整事業積立資産 取得支出	0	35,000	△ 35,000	—	
設立30周年記念事業積立 資産取得支出	0	26,900	△ 26,900	—	
財務安定積立資産 取得支出	0	55,000	△ 55,000	—	
固定資産取得支出	0	0	0	—	
什器備品購入支出	0	0	0	—	
投資活動支出計	0	196,900	△ 196,900	—	
投資活動収支差額	0	△ 26,900	26,900	—	
Ⅲ 予備費支出	0	0	0	—	
予備費支出	0	0	0	—	
当期収支差額	61	△ 33,726	33,787	—	
前期繰越収支差額	46,000	75,983	△ 29,983	60.5	
次期繰越収支差額	46,061	42,257	3,804	109.0	